

■豪州：2014／15年度までに家庭用電気料金が平均21%上昇する見通し

豪州エネルギー市場委員会（AEMC）は2013年3月22日、電気料金の将来見通しに関する報告書を発表した。これによると、2011／12年度から2014／15年度までの間に、家庭部門の規制料金（料金規制のないビクトリア州は「標準料金」）が平均21%上昇するという見通しになっている。ただし、初年度である2011／12年度の上昇率は、2012年7月からの炭素価格制度の導入等の影響で14%と最も高く、その後は年平均3%程度に留まるとしている。電気料金上昇の主要因は送配電費用の増加である。（注：2014／15年度はオーストラリアの会計年度の表記で2014年7月～2015年6月をいう）